



こころの中を見つめよう 情愛を広げるために

2011～2012 年度

国際ロータリーテーマ：カルヤン・パネルジー会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

NO. 1158 / 2011. 11. 4

東京赤坂ロータリークラブ

例会日/毎週金曜日12:30

例会場/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel /03-3505-5976 Fax/03-3505-6004

E-mail / akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

URL / http://www.akasakarotary.com/

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「未来に向かって広げよう心の絆 赤坂ロータリークラブ」

2011～2012 年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ/高須康有会長

●本日の例会/2011 年 11 月 4 日 第 1184 例会

卓話予定：「美術館の楽しみ」

美術館デザイナー&プランナー 澤登 紀乃 氏

●前回報告/2011 年 10 月 27 日 1183 回例会

RI2750 地区 片倉章雄ガバナー公式訪問

東京南 RC・東京赤坂 RC・東京麻布 RC 合同例会

(会場 東京會館 12F ロイヤルルーム)

卓話「ガバナー公式訪問にちなんで」

RI 第 2750 地区ガバナー片倉章雄氏(東京日本橋 RC)



ガバナー・会長・幹事・会長エレクト懇談会

10:20～11:10

(会場 東京會館 12F コレニアルーム)



出席報告：会員 43 名/出席 20 名・欠席 23 名

(東京南 RC 出席 104 名 / 東京麻布 RC 14 名)

ご来賓：RI 第 2750 地区ガバナー 片倉章雄、RI 第 2750 地区幹事 間宮健太郎、RI 第 2750 地区副幹事 片岡婦美江、千代田グループガバナー補佐 大西紀男、千代田グループグループ幹事 佐藤尚巳 (敬称略)

●次回予告/2011 年 11 月 11 日(金) 第 1185 例会

卓話：「爾今生涯—これから僕の人生が始まる—」

株式会社グッドホープ総研 代表取締役社長

石渡 隆生 氏

11 月行事予定

1 日(火) 火曜会 18:00～

場所：港区赤坂 1-7-19 (岩上会員ご実家)

キャピタル赤坂ビル 9F

4 日(金) 第 1184 回例会

卓話：「美術館の楽しみ」

美術館デザイナー&プランナー 澤登 紀乃 氏

10 日(木) 千代田、銀座・日本橋グループ IM

・第一生命 新館 6 階 16:00～19:00

11 日(金) 第 1185 回例会

卓話：「爾今生涯—これから僕の人生が始まる—」

株式会社グッドホープ総研 代表取締役

石渡 隆生 氏

14 日(月) RI2750 地区「新会員セミナー」

ハイアット・リージェンシー東京 15:00～20:00

18 日(金) 第 1186 回例会

卓話：「ビジネスリスクのマネジメント」

株式会社富士通 顧問 桑原 利行 氏

25 日(金) 第 1187 回例会

東京赤坂 RC・東京麻布 RC 合同例会会長

卓話：「年賀状ソフトの誕生秘話」

株式会社クレオ 代表取締役会長

土屋 淳一 氏



10 月 27 日(木)/ 15 件 97,000 円

累計 455,500 円

多額の寄付を有難うございました。

東京南 RC 会長 畑口紘、副会長 村井温、幹事 畑 敬、SAA 大瀧守彦、親睦活動委員長 中谷良平/東京南 RC、東京赤坂 RC、東京麻布 RC 合同例会を祝して。東京麻布 RC 会長 辻穂高、会長エレクト 加藤千博、幹事 平野裕二、奉仕 P 委員長 片岡婦美江/東京南 RC、東京赤坂 RC、東京麻布 RC 合同例会を祝して。尾関武男/南 RC さま、本日は合同例会お世話になります。橋本年男/和田さん、先日は赤坂での卓話ありがとうございました。本日の合同例会をお祝申しあげます。吉田用親、四分一勝、吉岡琢磨、入澤頼二、西澤民夫、石井謙次、秋吉志郎、佐藤雅彦、/合同例会を祝して。小林博茂/尾上さん、ニコニコ勧誘ありがとうございます。関陽一/初めてのガバナー訪問。少し緊張しております。松本智/合同例会、おめでとうございます。

今般の大震災に際し、皆さまから多くのご支援をいただきました。本日は、まずその御礼を申し上げると同時に、ガバナー会がお預かりした支援金について、現状報告をさせていただきます。

1. 復興に向けて

当地区では震災後、大震災救援奉仕委員会が立ち上げられ、各クラブが実施するプロジェクトの支援等のため、市川委員長の下で委員会を開催していただいています。8月25日現在、皆さまから寄せられた義援金は総額で1億1000万円になりました。昨年度はこのうち8000万円を日本ガバナー会に義援し、被災地区である第2520地区（岩手・宮城）、第2530地区（福島）の要請に応じて、さまざまな支援物資を直接被災地に送りました。これに加えて、世界中のロータリアンから寄せられた義援金の総額は10億4000万円にのぼり、災害直後にその中から当面の資金として1億2300万円が被災地区に渡され、また、一部は地区の要請で払い戻されました。残る8億7000万円の使途について、昨年度のガバナー会が提案されたのが震災による遺児育英プロジェクトを中心とするものでした。しかし、今年度のガバナー会のメンバーの過半数は、現地のロータリー活動がままならない現状での計画実現の難しさ、今まさに困っている被災者の方々にすぐに支援すべきであるという思いから、反対の意向を示しました。討議の結果、遺児育英に反対の地区にはガバナー会から払い戻して各地区独自で運用することとし、残った資金で遺児育英プロジェクトを実施することが決まりました。当地区は全額払い戻しの申請を行うこととし、払い戻された9500万円は復興支援地区委員会で管理して、各クラブの復興支援事業に積極的に活用していただこうと考えています。第2回復興支援地区委員会で地区協議会予算残金を組み込み、現在残高は9600万円になっています。第4回復興支援地区委員会では、よりクラブの意思を反映しやすいよう、資金をAとBの二つの枠に分けて活用することが決まりました。Aは各クラブが拠出した割合に応じてクラブ別に設定するもので、プロジェクト実施時には当該クラブのA資金までは優先して使用できます。Bは各クラブのA資金が不足した場合に活用するものです。B資金は、オーナープロジェクトを立ち上げる場合や他地区との合同プロジェクトに参加する場合にも使用できます。

10月8～9日に復興支援地区委員会のメンバーで被災地に行きましたが、塩釜近辺は地盤が80cm沈下し、流された家の基礎部分に海水が溜まったままでした。さらに復興が遅れている桂島にも行き、悲惨な気持ちになりましたが、作業をしていた高校生と思われる若者たちが「こんにちは」と声を掛けてくれて、とても嬉しく、力づけられる思いがしました。

今回の震災は破壊そのもので、私自身、日常で埋もれていた「破壊」という言葉を、これほど身をもって感じたことはありません。復興には何年もかかるとは思いますが、被災地の復興のためにさらなるご支援をいただきますよう改めてお願い申し上げます。

2. 本年度 RI テーマと会長強調事項

本年度のRIテーマは「心の中を見つめよう 博愛を広げるために」です。そして、カルヤン・パネルジーRI会長は、強調事項として「家族」「継続」「変化」を掲げられました。第一の強調事項である「家族」は、私たちの目標が家族を中心にとらえられているところから来ています。家族があって初めて、安全な家、水と衛生、疾病予防、親子にかかわるすべての問題を考えるようになります。ともすれば文明社会の中で希薄になりがちな家族というものが、どれほど人の根底にかかわる絆であったか、今回の震災で実感したのは私だけではないと思います。

2番目は「継続」です。きれいで安全な水の提供、識字率の向上、そして新世代という新たな奉仕部門を通して明日のリーダーとなる青少年を育成する活動等は、ポリオ撲滅と共にさらに高い方向に継続・進化させなければなりません。どんな簡単なことでも継続するのは容易ではありませんが、継続することでそれ自体が力を持つようになります。発展は繁栄につながり、繁栄は平和につながります。これからも、地域を育む活動を続けていきたいと思います。

第3は「変化」です。今回の震災や原発事故で、日本は一瞬にして大きなエネルギー問題に直面しました。地球規模まで視点を引くと、エネルギー問題は常に大きな課題の一つでした。地球温暖化も含め、刻々と変わり続ける課題や文明、経済、価値観に対応し、われわれの活動も変化していかなければなりません。改善できること、変えるべきこと、始めるべきことに目を向け、変えるべきことは勇気を持って変えましょう。私たちはロータリーを通して世界を良い方向に変えたいと望んでいる同志であることを、今一度胸に刻んでいただきたいと思います。

3. 本年度地区強調事項と重点目標

本年度の地区強調事項は2項目あります。まずは「クラブにおける長期計画の立案と推進」で、昨年スタートした長期計画は、引き続き本年も実行されます。三つの優先項目「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」の下、16項目が目標として設定されています。地区はクラブの自立性と独立性を尊重し、できる限りサポートしていく所存です。

もう一つは「職業奉仕の理念を基盤として五大奉仕活動の推進」です。特に職業奉仕は、こんな時代だからこそ礎として実践すべきと考えています。

地区重点目標の第一は、会員基盤の強化です。ポイントは、会員維持増強（各クラブ1名以上の純増）、クラブ拡大（地区として1クラブ以上）です。そのための施策の一つとして、35歳未満の会員の地区人頭賦課金を半額にすることが決まりました。

また、財団への支援は毎年目標額に達しないまま終了していますが、免税措置等を生かしてぜひ寄付の増進に努めていただきますようお願いいたします。財団が設置した基金はロータリー東日本震災復興基金日本委員会に引き継がれますので、通常の財団基金、復興支援プロジェクト地区支援金と併せて、人道的支援活動にぜひ活用していただきたいと思います。

地区重点目標のもう一つの柱は、米山記念奨学会への支援です。地区として特別寄付と普通寄付を合わせて、8000万円が今年度の目標です。当地区には優秀な学生が多くいるにもかかわらず、昨年度の寄付金は34地区内で13番目でした。今回の震災では、東京米山友愛ロータリークラブの副会長・金甲寅さんの「私たちが日本の方々と一緒に強い使命感を持ってこの日本で共に頑張ろう」という呼び掛けに応じ、奨学生の皆さんは団結して母国に帰られません。このようなクラブが当地区に誕生したことを改めて誇りに思うと同時に、皆さまには米山記念奨学会へのさらなるご協力をお願いする次第です。

4. 共に行動を

次に、ロータリーカードについてですが、当地区の保有率は極めて低いのが現状です。このカードを使うことでロータリーの活動に資金が回る仕組みになっていますので、ぜひご協力をお願いします。

さて、来年度は田中作次さん（埼玉県八潮RC）が日本人3人目となるRI会長に就任されます。これを契機に今一度ロータリーの基本に立ち戻り、一人でも多くの人の笑顔を取り戻すために、祈り、共に行動を起こしていこうではありませんか。